



キタ！からきた

だより 第170号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。
kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛

「こんなところに社会福祉士がいた！」

<大阪北支部・会員リレー紹介 054>

レポーター（三尾浩一）



今回ご紹介する大橋洋さんは、合同会社シェア相談支援KAVERI（カベリ）で、代表者として経営、相談支援専門員をされており、業務内容としては主に、障がい福祉の相談支援事業や、ケアラーの方、若年性アルツハイマーなどの方々の伴走サポート事業をされています。ケアラー当事者でスタッフの奥村さんが、「おばあちゃんは、ぼくが介護します。」という書籍の執筆活動もされるなど、精力的に活動をされています。

社会福祉士になったきっかけは、30代前半で東京の神学校に行かれていた時にメンタルのバランスを崩されて、北海道浦河町のべてるの家に療養目的で行かれて、その後ボランティアやスタッフをご経験され、浦河町で6年半ほど過ごされる中、北海道医療大学の向谷地生良さん（現浦河べてるの家理事長）から、当事者スタッフの方に対して社会福祉士を取っておくと良い旨の提案をされていたことをきっかけに、その後、大阪に戻られて障がい者支援施設で働く中で資格を取得されました。

社会福祉士として大切にされていることは「ともにいる事、ともに悩むこと」を大切にしていることや、皆様にお伝えしたいことは、「皆様からたくさんのお話を学ばせていただきたい」とのことでした。

インタビューを通じて、私自身も大橋さんから、どんな方とのつながりも大切にされていることや、全ての関わる人たちとともに学び、ともに共有していくことの大切さなど、色々な方とつながることの大切さを学ばせていただきました。



気づきの事例検討（第1回：座学）報告 2024/07/15

大阪北支部の今年度第1回目の事例検討会に参加しました。講師に稲松先生をお招きし、前年度から引き続き参加し、参加する度に多くの気づきを得てきたと思っています。今年度の初回は座学で、「なぜ事例検討会が必要なのか？」と、改めて事例検討会をする意義を考え、その土台を身につけてこそ、学びが深まると感じました。北支部で行っている「気づきの事例検討会」では、事例提供者が課題としていることに焦点を当て、信頼でき批判されないと言うサポート的な雰囲気を取り、直接的に支援者を支援する形をとっています。私たち支援者は日々のケース対応の中で様々な困難さを感じたり、自らの支援に自信が持てなかつたりする時が多々あり、その都度迷い悩み続けていると思います。

事例検討会では提供者のそのような思いに寄り添いながら、一緒に事例を振り返り、再アセスメントを通じて、内省的に振り返る機会を得るとともに、クライアントとの関係性を振り返ることで、気づきが得られ、新たな思考、今後の関わり方につながる一助になればと考えています。「人は自ら納得したとき、応用可能で有用な学習をし、この学習では自ら思考するプロセスを尊重する。」気づきの事例検討会では、このようなことを大切にしながら、事例検討会を行い、事例提供者、検討者、参加する皆さまの気づきや学びを共有し、共に成長していければと思っています。

（大阪北支部 松下 麻美）



★大阪北支部公式LINEアカウントのお知らせ（※他支部の方の登録也大歓迎です！！）
 情報が早い！情報が手元に届く支部公式LINE。目標としていた200名の登録を突破しました！
 LINE「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

